

1 策定趣旨等

(1) 策定趣旨

本市を取り巻く情勢が変化し続ける中、持続可能な行政運営と市民一人ひとりが豊かさを実感できる社会を実現するため、全庁横断的な体制のもとでデジタル化を加速させ、前計画を踏まえた、更なる市民の利便性向上と行政事務の効率化に向けた取組や、それらを下支えする取組などの方向性を示す。

(2) 計画の位置付け

「男鹿市総合計画」を補完し、本市のDX推進の指針となる個別計画

(3) 計画期間

令和8年度から令和11年度までの4年間

2 国の動向

自治体DX推進計画【第5.0版】（令和7年12月改定）

- ・自治体フロントヤード改革の推進
- ・地方公共団体情報システムの標準化
- ・「国・地方デジタル共通基盤の整備・運用に関する基本方針」に基づく共通化等の推進
- ・公金収納におけるeL-QRの活用
- ・マイナンバーカードの取得支援・利用の推進
- ・セキュリティ対策の徹底
- ・自治体のAIの利用推進
- ・テレワークの推進
- ・デジタル人材の確保・育成
- ・デジタルデバイド対策

など

3 これまでのDX推進の取組と課題

(1) これまでの取組

- ・諸手続のオンライン化、キャッシュレス決済
- ・マイナンバーカードの普及促進
- ・デジタル観光パスポート、AR・VR観光コンテンツ
- ・スマート農業、スマート漁業の導入支援
- ・WEB版ハザードマップ
- ・スマホ教室・よろず相談、eスポーツ体験会

(2) 課題

- ・オンライン手続やマイナンバーカードなどの活用促進
- ・DX推進をけん引するデジタル人材の不足
- ・生成AI等の先進技術を活用した業務効率化の遅れ
- ・デジタル推進の基盤となる、最適な業務環境の整備
- ・産業、くらし分野における取組の強化

前計画における理念、推進の柱を継承。
さらに、DX推進を下支えする取組の実施と推進体制を強化。

計画の理念

「デジタルの活用により、いつでも、どこでも、市民一人ひとりの多様な幸せが実現できる社会」

行政 ～行政のデジタル化～

利用者の視点に立ったオンライン手続の普及・促進を図ります。また、行政事務の効率化や効果的な政策立案に取り組める職務環境の整備を図ります。

- ・フロントヤード改革の推進
- ・デジタル技術の活用による業務効率化
- ・業務環境の最適化
- ・データ活用の促進

産業 ～産業DX～

観光・農林水産業の各分野において、環境整備や情報発信を強化することで、男鹿ブランドの向上を図ります。

- ・次世代へつなげる農業振興
- ・未来へつなぐ魅力ある水産業の振興
- ・地域の幸せを育む観光振興
- ・商工業振興・企業誘致

くらし ～デジタル社会～

健康、介護、交通、教育、防災等、日常生活に関わるあらゆる分野において、デジタル技術の活用を推進し、誰もが快適で安心して暮らし続けるまちを目指します。

- ・防災力の強化
- ・子育て環境日本一
- ・安全・安心なまち

デジタルデバイド対策

市民誰もがデジタル技術を使いこなしながら、必要な情報取得や手続きができる「スマホ市役所」への転換を目指します。

- ・地域活性化起業人によるスマホ教室等の開催充実
- ・集落支援員や公民館職員等のデジタルスキルアップ
- ・地域特性、ニーズに応じた講義内容の充実

デジタル人材の育成と確保

複雑、多様化する行政課題に柔軟に対応し、本市のDX推進をけん引できるデジタルスキルやマインドを持った人材の育成・確保を目指します。

- ・全職員の生成AIなどの知識と活用意識の底上げ
- ・職員の情報リテラシーの向上のための研修の実施

情報セキュリティ対策の徹底

マイナンバーをはじめとした個人情報の保護を徹底することや、複雑化・巧妙化が進むサイバー攻撃などの脅威に対する適切な対策を実施します。

- ・全職員対象のセキュリティ研修の実施
- ・情報システムの業務継続計画等の関連規定の整備
- ・情報システム運用状況等に関する自己点検と監査

推進体制

- ・男鹿市DX推進チーム 庁内各所属の代表で構成。DX推進に係る企画及び調整を行い、各所属や部局を超えた横断的な取組みを推進する。
- ・取組の検証 行政評価の結果や総合計画策定協議会の提言、男鹿市フェローからの専門的知見を踏まえ、計画の進捗と効果を定量的に検証する。
- ・県・市町村との連携 県・市町村との共同体制により、複雑・多様化する行政課題に対し、市民の利便性向上と人的資源の最適配分を両立させた行政運営の実現を目指す。